

平成28年2月

## 田原誉敏 学位論文審査要旨

主査 中村 廣 繁

副主査 内田 伸 恵

同 小川 敏 英

### 主論文

Fluorodeoxyglucose uptake on positron emission tomography is a useful predictor of long-term pain control after palliative radiation therapy in patients with painful bone metastases: Results of a single-institute prospective study

(ポジトロンCTにおけるFDG集積は、有痛性骨転移を有する患者に対する姑息的放射線治療後の長期的な疼痛制御の有用な予測因子である：単一施設による前方視的研究の結果)

(著者：田原誉敏、藤井進也、小川敏英、道本幸一、福永健、谷野朋彦、内田伸恵、松木勉、坂本博昭)

平成28年 International Journal of Radiation Oncology・Biology・Physics 94巻  
322頁～328頁

### 参考論文

1. Preliminary study of correction of original metal artifacts due to I-125 seeds in postimplant dosimetry for prostate permanent implant brachytherapy

(前立腺小線源治療における永久線源刺入後のヨウ素125線源による直接金属アーチファクトに対する線量測定法の補正についての初期検討)

(著者：高橋豊、森慎一郎、小塚拓洋、五味光太郎、能勢隆之、田原誉敏、小口正彦、山下孝)

平成18年 Radiation Medicine 24巻 133頁～138頁

2. 放射線単独治療後に放射性二次癌が発生したsuperior sulcus tumorの1例

(著者：田原誉敏、五味光太郎、中村卓、山下孝、川口智義、松本誠一、神田浩明)

平成20年 臨床放射線 53巻 476頁～480頁

3. Radiation-induced microbleeds after cranial irradiation: evaluation by phase-sensitive magnetic resonance imaging with 3.0 tesla

(頭蓋部照射後に生じる放射線誘発微小出血:3テスラMRIによる磁化率強調像を用いた検討)

(著者: 谷野朋彦、金崎佳子、田原誉敏、道本幸一、小谷和彦、柿手卓、神納敏夫、渡辺高志、小川敏英)

平成25年 Yonago Acta medica 56巻 7頁~12頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、有痛性骨転移に対する放射線治療を考慮する際に、FDG集積が長期的な癌性疼痛緩和のバイオマーカーとなり得るか否かに関して前方視的に検討したものである。その結果、有痛性骨転移患者において、放射線治療前後共にFDG集積が高値であるほど疼痛再燃傾向を認め、また、放射線治療前後でのFDG集積の差が高値であるほど、早期に疼痛が再燃する傾向を認めた。本論文の内容は、骨転移に対する放射線治療における長期的な疼痛緩和の予後予測におけるFDG-PETの臨床的有用性を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。